



夏休みも夢を拓くチャンス

「こどもの日」の5月5日、静岡新聞の「小学生の自由研究 米学術誌に掲載」の見出しが目に留まりました。埼玉県の小学6年生の柴田さんが、「カブトムシは夜行性」という常識を覆し、特定の木で昼間も活動することがあるという研究成果を導き出したというものです。2年かけて自宅の庭木に昼も集まるカブトムシを観察してデータを収集し、その成果が米国の生態学専門誌「エコロジー」に掲載されたとの報道でした。このように、年少ながらある分野で能力を発揮するという例は、決して珍しくありません。むしろ、身近なところでもしばしば遭遇します。



「なぜ？」という素朴な疑問や「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」という飽くなき探求心が発端になるのは間違いありませんが、これに粘り強く取り組む姿勢や独創性などが相まって、眠っていた能力が覚醒していきます。卑近な例ですが、補助輪を外して自転車に乗れるようになったり、鉄棒の逆上がりができるようになったりするのともそれと似たところがあります。

自由に使える時間が増える夏休みは、好きなことや興味あることととことん向き合うチャンスでもあります。損得や生産性にとらわれず、一つのことに没頭し、自分の心を満足感・充足感でいっぱいにしてほしいと思います。もちろん、学年によって自由に使える時間は異なります。1・2年生は部活動があったり、3年生は一定の学習時間の確保が必要だったりします。個々には様々な事情もあってやらなくてはならないことのある人もいでしょう。そんな合間を縫って、夢中になって取り組めるものがあるというのは、いわゆる「ウェルビーイング」(幸福の実感)であるとともに、自身の可能性の伸長にもつながると思うのです。そのようなサポートも大人の大事な役割だと考えます。

冒頭で紹介した柴田さんは、研究の成果をまとめて終わりとしていません。今夏は生態をさらに詳しく調べるため、体重や大きさなどの調査項目を加えて研究を深めるそうです。探求心に到着駅はないようです。逆に夢がどんどん広がっているようにも見えます。大中学生にとっても、自身の成長に結びつく夏休みになることを願っています。そして、事故やけが、病気と無縁に過ごせるよう、学校外でも「自分で考え、判断・決定できる生徒」であることを期待しています。

<文責：校長>

☆中体連・地区大会〔結果〕～応援ありがとうございました～

【団体戦】 ★は、県大会出場

野球部	第3位
男子バレーボール部	第3位
女子バレーボール部	第3位
男子卓球部	第4位
女子卓球部	第7位

サッカー部	敗退
男子バスケットボール部	第3位
女子バスケットボール部	第3位
男子ソフトテニス部	敗退
女子ソフトテニス	準優勝★
男子剣道部	第5位
女子剣道部	第3位★

【個人戦】 ★は、県大会出場

陸上競技部

女子1年100m	第9位★	平井
男子低学年4×100mR	第5位★	朝倉、杉原、小澤、菊池
男子ソフトテニス部	第3位★	早野・鴻野ペア
	第8位	北古味・遠藤ペア
女子ソフトテニス部	優勝★	山口・内田ペア
	第5位★	加藤・横井ペア
剣道部（女子）	第3位★	高杉
	第7位★	村崎
柔道部（男子）	優勝★	柴田
（女子）	第3位★	柴田
水泳部（女子）100m平泳ぎ	第7位	若林
200m平泳ぎ	第8位	若林



☆1学期が終わります 充実した夏休みを！

三者面談へのご来校ありがとうございました。生徒の学校生活の状況等を踏まえ、充実した夏休みを過ごすことができるよう、ご家庭での見届け、見守りをお願いいたします。